

映画「氷雪の門」

日本文化
思う



長瀬 隆

一九四四年、独立プロにより製作され、東宝系で上映予定であった映画に「氷雪の門」があった。しかしこれは僅前に駐日ソ連大使館から「反対的」とする強烈な抗議を受け、一般公開が中止された。一九〇〇年十一月、これが樺太連邦に与び

デオ化された。

映画は、金子俊男著「樺太一九四五五年夏」(七一年)を、真岡(現ホルムスク)那須局九人の若く女性交換手の悲劇の死を中心にしてシナリオ化し、製作されたものである。しかし冒頭に述べた部分で、交換手の一人が広島に後者をもつたために、そこで原爆被爆が話題になつてゐる。これは原爆ではなく、広島全国で見られるようこの段階で加筆されたものとみられる。

原爆は、当初は新型爆弾の名で、しかもその被爆については詳しくは報じられておらず、樺太(現サハリン)でこの時期一般の強烈関心事になることはなかつた。私自身について書けば、これの眞の名称を知ったのは、ソ連占領の大泊(現コルサコフ)で十月下旬

再開された中学校の授業においてであつた。

マツチ猶太で都市を破壊できる爆弾であることで、その先生(物理)は「これで第三世界戦大戦は不可能になつた」と教えた。十井翠作詞の校歌に「ああ、わが樺太露の史に幾多の曲折思ひは長い」という一節があり、私は「四島を返すのは簡単なことだ」と思つて、ロシア人と許し機会があり、私は「四島を返すのは簡単なことだ。問題はサハリンである。私はまだいつの日にかロシアを追いやるために可能であると思つていた。しかし戦争の性格がそのようなものに変化したとすれば、それは不可能になつたと思わないわけにはなかつた。

一般公開中止

映画は、金子俊男著「樺太一九四五五年夏」(七一年)を、真岡(現ホルムスク)那須局九人の若く女性交換手の悲劇の死を中心にしてシナリオ化し、製作されたものである。しかし冒頭に述べた部分で、交換手の一人が広島に後者をもつたために、そこで原爆被爆が話題になつてゐる。これは原爆ではなく、広島全国で見られるようこの段階で加筆されたものとみられる。

原爆は、当初は新型爆弾の名で、しかもその被

り、このため日本人全般の樺太への關心不足が生じたのである。このことは、政府の扱いが「好」という言葉を好んで口にしてもしまくる「北方領土」並みであつたならば、想像するならば、容易に納得されよう。

「北方領土」はついに返還されることなく、二十世紀を迎えたがまますしくなれてきた。

たことをめぐる論議において、日本政府が樺太を切り離していくことは遺憾であった。どうやら日本政府が樺太を切り離していくのは、長くソ連貿易に従事してきた。ロシア人と許し機会があるが、私は「四島を返すのは簡単なことだ。問題はサハリンである。サハリンをも、いくらかはなるのが怖いが」という言葉を、一度ならず聞いてきてくるからである。

もし日本側が、南樺太をやくも北方領土を諭議の対象として、この全部の返還を求めていたのであるが、

日本に対しても使われた。「友もしくいわゆる「北方領土」並みであつたならば、これは領土問題を持ち出さないといふことであつた。」「平和」という言葉も愛用して

いたが、ソ連とクレムリンの安全ということを意味していた。

映画には「報復主義」は認められない。樺太の碑、氷雪の門の紹介に始まり、一九四五年夏の樺太に廻行(そとう)し、戦闘状況を物語り、取り残された郵便局にあって、九人の若い女性たちが、ソ連兵の接近を認めて青酸カリを服すなどが、抑制された画面と台詞(せりふ)で淡々と描かれてゐる。戦闘中止を求める日本軍使にたいてて「敗者は国際法はなく」(うそぞくソ連司令官、白旗をかけて近づく軍使の射殺、ソ連の無差別攻撃等々、ソ連には都合の悪いことも描かれてゐるが、事実だったのだから仕方がない)。

しかし結局にもう一度今 日の氷雪の門を映した

し、平和を祈念して終わること 映画の基調音は「鎮魂」である。沖縄の「ひめゆり部隊」の女学生を主題とした映画は、何ら変わることなく、内容はまったく同質である。ところが、それは別にアメリカからの反米反難されることなく、堂々と全国で上映されたのに對し、これはソ連に

よつて「反対的」と「抗議」され、上映中止にまで追い込まれた。私は今はその詳しい経緯を知らない。しかしづつと四半世紀をへてこうした形で見られることが多い。この映画は、このあたりものはあつたのである。

解説をも追るものとして立ち現れてゐる。

ソ連の抗議受け 葬られた「鎮魂」

樺太連邦紙上のビデオ案内記事には「戦争と平和、戦争の悲惨さについて、政府やマスコミは毎年、沖縄や広島を大きく取り上げている。勿論(もちろん)それも大切であろうが、樺太について何ら語られなければ何故(なぜ)であるか」という文書が見られる。

しかしのことでは、真岡中学校出身の作家綱淵謙鏡氏が、前掲書が刊行された年、「中央公論」誌上の書評においてすでに明確に述べていた。一九五一年のサンフランシスコ講和条約で日本政府は南樺太を放棄してお

しかし四島だけで我慢するから手を行なうではないか、と提案したならば、ロシアは喜んで応じたと思われる。中立条約が有効期限内にあつたにもかかわらず、それでも大切であろうが、樺太について何ら語られなければ何故(なぜ)であるか」という文書が見られる。

しかしのことでは、真岡中学校出身の作家綱淵謙鏡氏が、前掲書が刊行された年、「中央公論」誌上の書評においてすでに明確に述べていた。一九五一年のサンフランシスコ講和条約で日本政府は南樺太を放棄してお

が正直であつたと主張するには相当な無理があり、内心に感じたるものはあつたのである。

ロシア語で今は外語となっている言葉に「報復主義」というものがあつた。最初は西ドイツにア文学者、川崎市在住の

映画「氷雪の門」

ビデオ化に
思う

長瀬 隆

う邊にやがて久し「反対的」
といふ言葉で、1910年頃からも
は回りあつたのか？ それは
日本が社會主義の國に飛び入りして
前提で出発し、それが反対して
いわゆる「反對主義」、「反對主義」
を意味してたが、それがその
國は抱えてきた内外の諸矛盾
の結果、1911年末には解
散(解散)し、ソ連(ソ連)の國名
は消滅した。私はその原因の一
つに、戦中から戦後における
対日政策の誤謬(誤謬)とい
ふにねじて、それが常に人々

重い意味

失敗があつたと感づてゐる。ク
レムンはわが経済へをシテ
ア開港地(アカシヤ)の労働者を
生じたが、日本人全般の不信を
払拭(払拭)できなかつたのである。

今 日では少なからぬロシ
ア人たちが旧ソ連を全
体主義国家であつて認めてい
る。九年、東京で財團法人全
国強制抑留者協会主催の講演会
があり、ロシア風からの出席者
たちの講演を邦訳で読む機会が
あつた。戦後しばらくして多くの
死没者を出した強制抑留を自己
批判する内容のものであつた。ロ
シアの株式をつぶし感じた。

そのうりけのソ連を「全體主
義」国家と規定する文言があつ
て、私は目を眞張り、同協会事
務局を訪ね、当日のロシア語の
音譯アズベークに当たつてみた。下
「タグスイ」とあり、過ちを認
めた。しかしこの言葉は
乗客たががナチス・ドイツを

批判する際に使用したもので
ある。したがて四つ並んでい
る名で羅列するといふのは、そ
れがロシア革命の因だつたと
自説する人ひきのところ。ゆき
過した蘇聯主義・大同主義の反
動の感がめぐらしくあつてある
が、いかがわしく、映画
「氷雪の門」を皮肉とした思
想の諷刺は明白である。

私は四五年八月十五日
の大泊(現コルサコ
フ)の町の満艦艇に輝く夜景を
思ひ出す。打たれて火水管網の
ゆきにねじて、それが美に人々

船の遭難を聞いて(日時的には
若干の虚構があつた)驚く真面
の若く女性たちが、やがて海上
に現れたソ連艦隊からの砲火を
艦體(かんたい)、混血、そ
して船体をもつて見せめる。映
像は當時を彷彿(ぼうふく)と
させる、良くなぞだ映画の一
こまを形成してくる。

数年前、ソ連の船にあ
つた真面目の在日コトマンの
作家が、当時真面目近くに起
こつた朝鮮人民の殺害事件を
NFTVテレビで語るのを聞い
た。在日コトマンの間
では語り継がれていてそれを
この作家を標りもつて紹介
したのであつた。たまたま私の直
後のソ連の人民電視台語り機会があ
つたので、私は事件についての感想を
思ひ出す。打たれて火水管網の
ゆきにねじて、それが美に人々

能性のある港町に移住する。日
本人の家の半分を换取してその
一家と暮らすが、一家の母親
下の子供たちは島に残りて母
で犠牲死してくる(わざわざ虚
構)。その家の主は歯科医、少
年はその治療を受ける。しかし
彼女が続々災難により精神に
異常をきたしてて、「おお
この夫はロシア人だが、まだアメ
リカ人がなかつたないが…」
と嘆き口走つてくる。

淡い本音を眞面目にこらへた娘
が一家の人々の心をもつて標け
てゆき、少年が島に船を見
送りつつ、「スミマセン、まことに
前をくつの日本がさくらんばが
なづけて戻る」など。少年
はその口を奪う、青い海を白い
船に乗せて彼女が戻つてくる様
を画(え)かく。

この「白い船」にはソ連共产党
主義が仮託されていた。それが
今や文件ながら画集(がぐじ)
に帰り、私の眼のいいれば
再生不能である。すでに相当数
の人々がサバリンを尋ねては
るが、皆がみなその経済の停滞
と疲弊、人心の荒廃(あはい)
を返り、うちのが勝者(じゆしゃ)
が敗者(ひひしゃ)かと自問し、ま
た語りあつてくる。

金子俊男氏の今日では古典的
性格をもつむといひた記録に
基づく映画「氷雪の門」は、作
品自体の事のみといひ、それが
たどりた遭難大運命(じゆめい)
をめでて重い悲劇(ひげき)。ビデオ
が広く観(み)られ、一般上映
の口水(いたるひい)が現象である。

「」(がく) 続く批評「ロジ
アホの長い道」(八
九) 作者の少年少女向の作品「青
い海、白い船」について「サ
ハリンの日本少女」を名を改えて
て触れた。

ビデオ版「氷雪の門」(村山
三男監督、木下みよし監)は、
社団法人全国艦艇大連盟が400
万円(送料込み)で販売中。問
い合せや同連盟事務局(03
-370-0409)。

戦時の恐怖再現 一般上映に期待

見る心がじよ光景であった。
樺太(現サハリン)が日本領と
して失われたといひの衝撃が大き
く、1911年の大火の下では
内地を自捕(あつ)たたし
に動きがあつたのである。私
自身が家の女性たちを連絡船
に送りながら、あの長い狭橋の
上から見たのだから。敗戦
は悲しきべきことだつたが、戦
争が終つたのは良しといつた
た。

そのうりけのソ連を「全體主
義」国家と規定する文言があつ
て、私は目を眞張り、同協会事
務局を訪ね、当日のロシア語の
音譯アズベークに当たつてみた。下
「タグスイ」とあり、過ちを認
めた。しかしこの言葉は
乗客たががナチス・ドイツを

たであつて、無条件降伏後
のものから攻撃がなされなか
つたならば、起らなかつたと
思ひゆうて加えざるをえなか
つた。アメリカが十五日以後一
切の戦闘行動を停止してしま
なかつたので、ソ連のこの行動が何に
起因したかは、私自身「樺太よ
遠く孤独な」(八四年)のなか
で明記してくる。

「」(がく) 続く批評「ロジ
アホの長い道」(八
九) 作者の少年少女向の作品「青
い海、白い船」について「サ
ハリンの日本少女」を名を改えて
て触れた。

ビデオ版「氷雪の門」(村山
三男監督、木下みよし監)は、
社団法人全国艦艇大連盟が400
万円(送料込み)で販売中。問
い合せや同連盟事務局(03
-370-0409)。